

## 海のプロフェッショナル 海洋学への招待状

窪川かおる [編] / 女性海洋研究者チーム [著] (2010)  
東海大学出版会  
A5 変判ソフトカバー 186 ページ 1,200 円+税

近年、社会の各分野への女性の進出と活躍には目を見張るものがある。一方、水産業や海運業をはじめとして、海に関する職場はなお男性中心の世界である。水産学系や海洋学系の大学、学部における学生の男女比と比べても、海洋関係分野における女性の職場への進出は十分なものではない。本書は、女子中高生を対象に、職業としての海洋や海洋生物にかかわる研究開発の魅力を紹介するために編まれたものである。著者は、東京大学の窪川かおる氏をはじめとする第一線で活躍中の 21 名の女性研究者や技術者達である。全体は、「学ぶ」、「進学する」、「仕事にする」の 3 部で構成されている。

第 1 部の「学ぶ」では、海洋学の基礎が紹介されている。海洋の成因や広がり、海水の物性や流動、気候と海洋の相互作用、海洋生態系の仕組みなどの海洋学の基本的事項に加えて、人と海のつながりなどの文化的な側面、水産業をはじめとした産業的な側面、さらには海洋に関する法制度などについても平易に解説されている。一方、深海底の調査や地球深部の掘削によって得られた極限環境下にある生態系や大規模地震に関する知見など、最新の話題についても適切に紹介されている。また、随所に配置されたコラムでは、海洋や海洋生物についての興味ある現象に加えて、各種の観測機器や調査船にも目が向けられており、海洋に関する調査・研究の実際を知ることができる。女子中高生ばかりでなく男子も含めたすべての中高生にとって格好の海洋学入門であるとともに、一般の読者や、海洋や水産関係の実務に携わっている者にとっても、海洋学の最近の動向や知見を概観する上で好適な参考書となろう。

第 2 部の「進学する」では、海底地質、海洋生物、船舶運航の分野で、それぞれ大学院や専攻科において学位や資格の取得を目指す 3 人が登場する。それぞれの道を志すことになったきっかけや目標、1 日のスケジュールの例、勉学や研究の具体的な内容、日常生活の状況などが活写されている。国際学会やシンポジウムへの参加、漁船を使つての野外調査の実施、練習船での実習航海への参加など、期待と不安が入り混じるなかで、仲間や先輩にも励まされながら、研究者や技術者として一步一步前進していく様子が描かれている。加えて、各種の奨学金や研究費の助成制度など、大学院等での研究生活と経費についても紹介されている。これらの分野を志す女子中高生にとって大きな励みとなるとともに、具体的な進路を選択する際の参考となろう。

第 3 部の「仕事にする」では、海洋や水産関連の研究

開発の第一線で活躍している 8 人によって、それぞれの職場の紹介、1 日及び 1 年間のスケジュール、職務の内容、日常生活や所感がつづられている。職場は、国の行政機関や独立行政法人から水族館、企業の研究所、国際機関や NGO にわたっている。また職務内容は、海洋汚染調査、水産資源管理、海洋調査支援、水族館での飼育・展示、地球深部探査、食品開発、自然に関する社会教育、国際的な沿岸管理など多岐に及んでいる。いずれの職場や職務においても、彼女たちが誇りをもち生き生きと仕事に励んでいる様子には感銘を受ける。また、海洋や水産の研究開発業務が、研究開発の本体に加えて、観測支援やデータ解析などの支援業務や成果の普及・啓発活動を含めて多様化するなかで、女性の参画が不可欠なものとなっていることを実感させられる。一方、女性にとっては結婚、出産、育児が人生の大きな節目であり職業を継続する上での課題であること、本人の中・長期的な生活設計に加えて、職場や家族の理解と協力が欠かせないことも率直に語られている。

巻末には、Q & A の形で、海に関する職場や職務の例、専門知識を習得するための進路の選択、就職後の仕事と家庭の両立のためのアドバイスが要領よくまとめられている。また、海洋学や海洋生物学関係の各種の入門書や、海洋学や水産学関係の大学、研究機関、団体の web サイトが紹介されており、読者がさらに学んだり詳細な情報を得ることが出来るように配慮されている。加えて、表紙をはじめ本書の所々に配された女性研究者や女性技術者の仕事ぶりを描いたイラストは微笑ましく、本書を馴染みやすいものにしてている。

今後も少子高齢化が続くと予想されるなか、わが国の海洋関連の諸科学及び産業の発展のためには、この分野への女性の積極的な参画が必要である。そのためには、進学や就職へ向けた適切なガイダンスとともに、持続的に就業が可能な職場環境の整備が欠かせない。その意味で、本書が編まれた意義は大きい。本書は、これまで男性中心であった海に関連した職場を切り拓いてきた女性達からの後輩達へのエールに満ちている。本書が対象としている女子中高生はもとより、海に興味を持つ男子中高生、現在、海に関する職業についている女性、そして何よりも彼女達と同じ職場で働く男性諸氏にこそ読んで欲しい 1 冊である。

(水産総合研究センター 和田時夫)

連絡先

独立行政法人水産総合研究センター  
研究推進部

〒 220-6115 横浜市西区みなとみらい 2-3-3

クイーンズタワー B15 階

TEL : 045-227-2600 (代表)

FAX : 045-227-2700

<http://www.fra.affrc.go.jp/>